

黒部市地域公共交通計画 概要版

出かけてたのしいまちを育み
地域が一体となってまもり育てる未来へつなげる公共交通

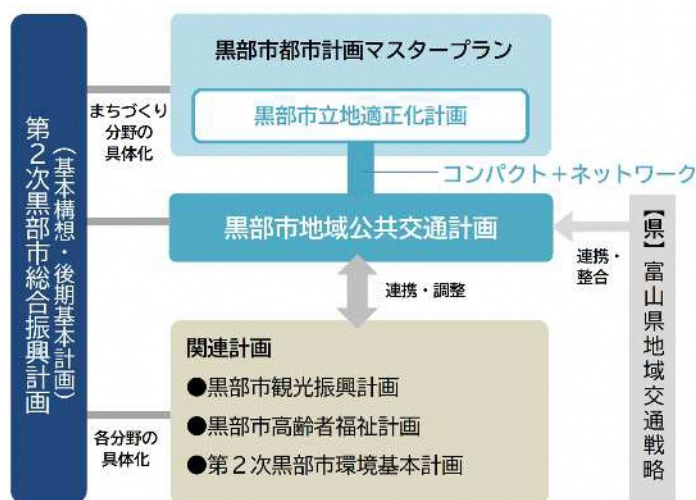
- 計画期間 令和6年度から令和10年度までの5年間
- 対象区域 黒部市全域

1. 計画策定の背景と目的

本市では、平成27年3月の北陸新幹線開業や市街地開発等を見据え、「黒部市地域公共交通網形成計画」を策定し、「路線バス・コミュニティバス等が鉄道を補完する都市構造」の構築に向け、路線バス・デマンドタクシーの整備・拡充を行い、市民の利便性向上に向けた取組を進め、令和2年3月には「第2次黒部市地域公共交通網形成計画」を策定し、さらなる取組を進めてきました。

しかしながら、人口減少・少子高齢化の進展、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うライフスタイルの変化、物価高騰による運行経費の増大、運転手不足の深刻化など、公共交通を取り巻く環境はこれまで以上に厳しさを増しています。

このような状況を踏まえ、地域の関係者と一体となって公共交通に関する課題に対応し、まちづくりの取組に沿った持続可能な公共交通ネットワークの実現を図るため、「黒部市地域公共交通計画」の策定を行いました。



2. 市内公共交通における課題整理

黒部市の現状や社会動向等	現行計画の達成状況と成果
<ul style="list-style-type: none">・黒部市の概況・黒部市の公共交通の現状・まちづくり・観光に関する動き・公共交通を取り巻く社会動向・アンケート調査結果	<ul style="list-style-type: none">・5つの指標のうち「達成」は1指標・一定のサービス水準、利用者数を確保・まちづくりと連携した取組により公共交通の利便性が向上
課題① 公共交通サービスのさらなる改善	<ul style="list-style-type: none">○市内の交通資源の効率的な活用と充実○交通DXへの対応○継続的な担い手の確保
課題② 移動需要の創出・集約の取組との連携強化	<ul style="list-style-type: none">○さらなる公共交通の移動需要の創出○コンパクトプラス公共交通ネットワークの充実○駅・駅周辺まちづくりとの連携強化○新たな観光資源の活用○観光まちづくりとの連携強化
課題③ 公共交通に対する関係者の連携・協働による取組の強化	<ul style="list-style-type: none">○地域の多様な関係者の連携・協働○市民・企業・店舗等の取組の強化
課題④ 公共交通環境のさらなる向上	<ul style="list-style-type: none">○公共交通の利用環境の向上

3. 計画の基本理念と基本方針

本計画の上位計画である第2次総合振興計画基本構想の公共交通分野における施策は、「便利で優しい地域交通ネットワークの充実」を掲げており、関連計画の立地適正化計画においては「コンパクトかつ公共交通等ネットワークが充実したまちづくり」を基本理念としています。

これらの施策を推進するためには、出かけて楽しいまちづくりとそれを支える移動手段を確保することや、公共交通利用者である市民だけでなく黒部市や交通事業者等が一体となって取組を実施すること、鉄道をはじめ、路線バスやコミュニティ交通など多様な交通手段が連携することが必要です。

本計画では、本市の公共交通の目指すべき姿の実現に向け、基本理念を『出かけてたのしいまちを育み 地域が一体となってまもり育てる 未来へつながる公共交通』と定めるものです。

基本理念 出かけてたのしいまちを育み 地域が一体となってまもり育てる 未来へつながる公共交通

- ▶ まちづくりの推進と公共交通の連携により誰もが出かけやすい、出かけて楽しいまちを育みます。
- ▶ 市民・黒部市・交通事業者等の関係者が一体となって公共交通を育てます。
- ▶ 鉄道を基軸とした持続可能な公共交通ネットワークを確立します。

基本方針① いつまでも出かけやすい公共交通

鉄道を基軸として、市内ほぼ全域に構築されている公共交通ネットワークを維持するため、既存の鉄道や路線バス、コミュニティ交通の見直しや改善を進め、さらなる利便性向上と利用促進を目指します。

さらに、持続可能な公共交通の実現に向けて、地域の輸送資源を有効活用する取組や厳しい経営状況が続く交通事業の経営を支援する取組を推進します。

基本方針② まちづくりや観光と共創する公共交通

まちづくりの拠点となる駅施設の整備や駅周辺の整備事業を推進します。また、公共交通の充実により中心市街地までの移動をスムーズにし、中心市街地においては、高齢者にも利用しやすい電動小型カートの導入などにより、暮らしの足を充実させ、回遊性を高め、「出かけやすい・出かけて楽しいまちづくり」を推進します。

併せて、観光地を結ぶアクセス交通の維持や利便性向上、観光地での周遊を支える移動手段の充実により、観光まちづくりと連携しにぎわい創出に寄与します。

基本方針③ みんなで支え合う公共交通

公共交通を確保・維持するためには、公共交通利用者である市民だけでなく黒部市や交通事業者等の多様な主体の連携・協働による取組が必要です。公共交通を身近に感じ、積極的な利用を促進する取組とともに、企業や店舗等との共創や地域住民で支える新しい移動手段の検討等により、地域の関係者が一体となって公共交通を支えます。

基本方針④ みんなにやさしい公共交通

交通情報システムやホームページのほか、高齢者にも配慮した様々な媒体・方法を活用して市民の利用シーンに応じた運行情報等を分かりやすく適切に伝えるとともに、運転免許自主返納支援事業の周知など積極的な情報発信を行うことで利用促進に寄与します。

また、交通施設や待合環境の改善などにより利便性と魅力を高める公共交通環境の提供を行います。

4. 黒部市の公共交通ネットワークのイメージ

鉄道を基軸として、三日市、生地、石田地区や富山地方鉄道沿線に集積する市街地を結び、主要交通結節点や観光拠点を路線バス等が結ぶ「路線バス・コミュニティ交通が鉄道を補完する公共交通ネットワーク」の形成を目指します。

北陸新幹線による広域的な交流、あいの風とやま鉄道と富山地方鉄道による地域間交流を路線バスやコミュニティ交通によるネットワークが市内に波及させ、市民や来訪者が、市街地や観光・産業の拠点へ自由に移動できる体系となります。

公共交通の充実により中心市街地までの移動をスムーズにするとともに、中心市街地においては、高齢者にも利用しやすい電動小型カートの導入などにより暮らしの足を充実させ、回遊性を高めます。さらに、自転車や徒歩による移動を含む一体的な取組により、「出かけやすい・出かけて楽しいまちづくり」を推進します。

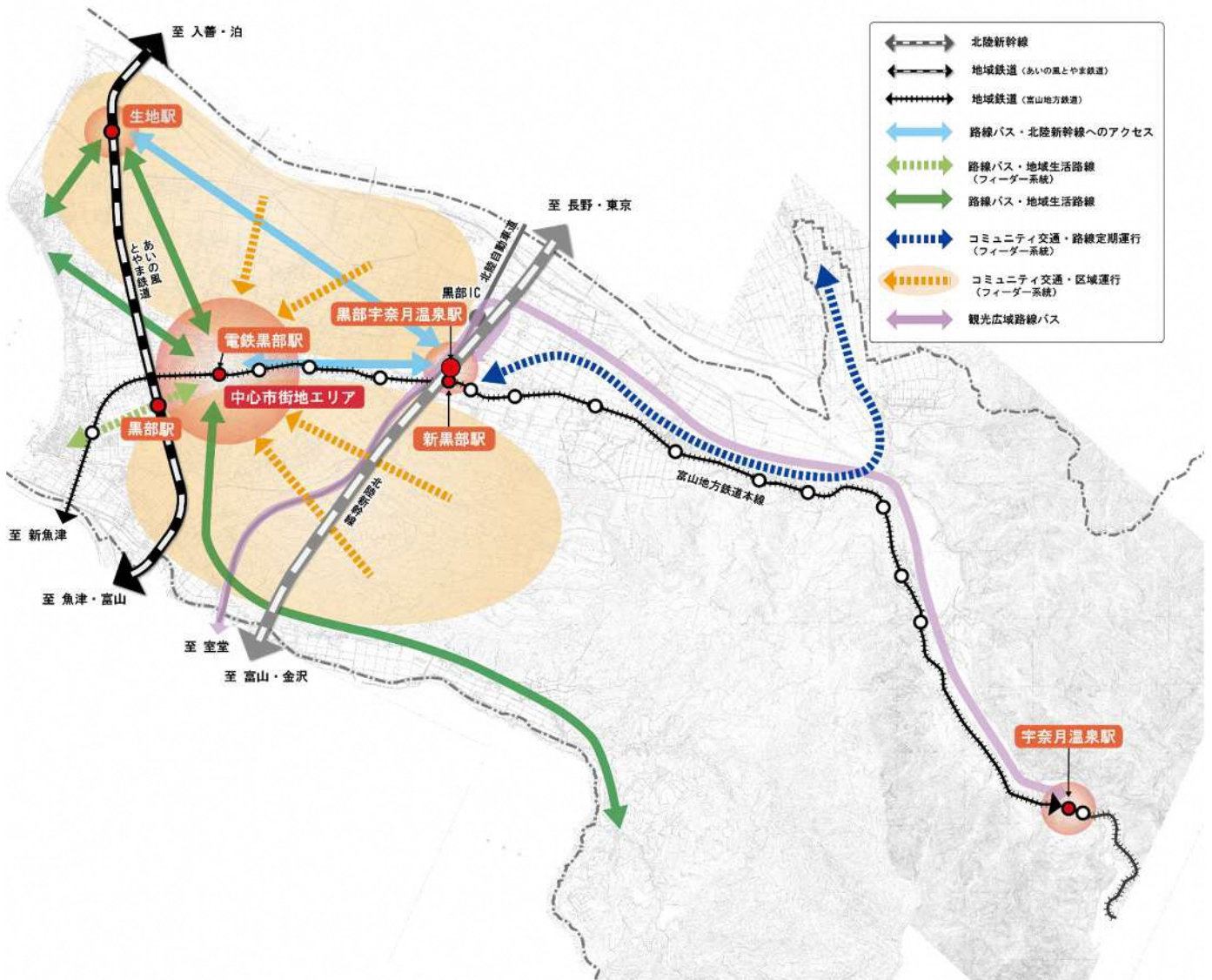


図 鉄道を基軸とした公共交通ネットワークイメージ

5. 計画の目標

計画の基本方針に基づき、計画期間において達成を目指す目標を以下のとおり設定します。

目標指標		現状値(R4年度)	目標値(R10年度)
【目標指標①】 利便性の高い公共交通の維持	市内路線バス・ コミュニティ交通の利用者数	152,850人/年	185,000人/年
	市内鉄道の利用者数	2,732,217人/年	3,393,000人/年
【目標指標②】 公共交通事業の運営効率化	市内路線バス・コミュニティ交通の 利用者一人当たりの財政負担額	866円/人	866円/人以下
【目標指標③】出かけやすい交通手段の提供による中心市街地の活性化	中心市街地バス停利用者数	26,906人/年	34,000人/年
【目標指標④】観光まちづくりとの連携によるにぎわいの創出	黒部宇奈月温泉駅乗車人数	230,329人/年	328,000人/年
【目標指標⑤】公共交通を地域で支える意識の醸成	スポンサー、サポーター制度の 立上げ、参加者数	制度未導入	制度導入
【目標指標⑥】誰もが分かりやすい交通情報の提供	「公共交通で行こう」 ホームページアクセス数	平均5,488件/月	平均6,800件/月

6. 実施する事業

計画の基本方針を実現するための実施事業の中から2つの事業を紹介します。

ピックアップ事業① 中心市街地における、よりきめ細かな移動手段の創出（事業②-3）

外出機会の創出による健康づくりと中心市街地活性化の観点から、既存の公共交通では対応が難しい、よりきめ細かな暮らしの足を確保することが必要です。

そのため、環境に配慮し、誰でも気軽に利用できるグリーンスローモビリティ*として、中心市街地において主要施設をめぐる電動小型カートを導入することで回遊性を高め、市民の気軽なお出かけや市内の散策など、出かけやすいまちづくり、出かけて楽しいまちづくりを進めていきます。

*グリーンスローモビリティ…時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称です。



ピックアップ事業② 運転免許自主返納と連携した利用促進（事業③-1）

黒部市高齢者運転免許自主返納支援事業では、運転免許を自主返納した高齢者を対象に、市内バスのフリーパスの交付などの代替え移動手段に係る支援を行っています。また、交通事業者においても、運転経歴証明書を提示して乗車券を購入する場合に普通運賃が半額となるなどの運転免許自主返納者に対する割引制度を設けています。



市のホームページ、広報くろべなどの広報媒体や出前講座、警察署等を通じ黒部市高齢者運転免許自主返納支援事業や交通事業者による運転免許自主返納者に対する割引制度を周知し、公共交通の利用促進を図ります。また、免許返納者だけでなく、返納を検討している方にも幅広く周知することで返納後の懸念の解消に努めます。併せて、自治振興会や老人クラブ等への働きかけを行い、高齢者の公共交通の利用促進を図ります。



基本施策及び実施事業を以下のとおり整理します。

また、基本方針において関連する SDGs（持続可能な開発目標）の目標について示します。

表 実施事業一覧

基本方針	目標	基本施策	番号	実施事業
①いつまでも出 かけやすい公 共交通 	目標① 目標② 公共交通事業の運営効率化 利便性の高い公共交通の維持	(1)鉄道・路線バス等のサービスを維持・改善する	①-1	北陸新幹線の利用促進と活用
			①-2	地域鉄道の維持及び利便性向上
			①-3	路線バス・コミュニティ交通の運行及び利便性向上
			①-4	集客施設への需要に合わせたバス路線の見直しによる利用促進
			①-5	実情を踏まえた運行形態の見直しの検討
			①-6	路線バス・コミュニティ交通の運賃制度の見直しの検討
		(2)輸送資源を総動員する	①-7	福祉、教育、観光、医療、商業等と連携した運行の検討
			(3)交通事業者の経営を支える	①-8
②まちづくりや 観光と共創す る公共交通 	目標③ 目標④ 観光まちづくりとの連携による にぎわいの創出 出かけるやすい交通手段の提供 による中心市街地の活性化	(4)駅周辺のまちづくりと中心市街地の活性化を促進する	②-1	黒部駅における施設整備の推進
			②-2	生地駅移転事業の調査・検討
			②-3	中心市街地における、よりきめ細かな移動手段の創出
			②-4	無料公共自転車「ちよいのり黒部」の整備・運用
			②-5	黒部宇奈月温泉駅周辺施設等のあり方の検討
		(5)観光とともににぎわいをつくる	②-6	アルペンライナーの維持及び利用促進
			②-7	黒部宇奈月キャニオンルート一般開放に伴う既存公共交通の利用促進
			②-8	自転車事業の推進
③みんなで支 え合う公共交 通 	目標⑤ 公共交通を地域で 支える意識の醸成	(6)公共交通を積極的に利用する	③-1	運転免許自主返納と連携した利用促進
			③-2	モビリティ・マネジメントの推進
			③-3	交通DXの推進による利用促進
		(7)支え手・担い手の参加を促す	③-4	企業・店舗等との共創の促進
			③-5	地域で支える新しい移動手段の検討
④みんなにやさ しい公共交 通 	目標⑥ 誰もが分かりやすい 交通情報の提供	(8)分かりやすく運行情報を伝える	④-1	情報提供の充実
			④-2	交通情報提供システム等の活用・利用促進
		(9)施設や車両を改善する	④-3	駅舎及び附帯施設の修繕・更新
			④-4	バス停の増設と待合環境の改善
			④-5	環境配慮型車両、バリアフリー車両による運行や新システム等の導入の検討
			④-6	車両、バス停等のデザイン化の検討

計画の基本方針を実現するための基本施策を以下に示します。

基本方針① いつまでも出かけやすい公共交通

基本施策(1) 鉄道・路線バス等のサービスを維持・改善する

鉄道や路線バス等の利用促進や利便性向上のための取組を推進し、本市の広域的な移動を担う公共交通である北陸新幹線、地域間交流の主体となるあいの風とやま鉄道や富山地方鉄道、地域内移動を担う路線バス・コミュニティ交通のサービス水準の維持・改善を図ります。



図 新幹線通勤通学支援補助金リーフレット



図 道の駅KOKOくろべへ乗入れを検討し路線変更を行ったバス路線「生地循環線」

基本施策(2) 輸送資源を総動員する

本市の公共交通が、市民の多様な移動ニーズにきめ細かく対応していくためには、鉄道や路線バス、コミュニティ交通に加え、市内にある福祉バスやスクールバスなどの本地域の輸送資源（車両・人材など）を総動員していく取組が求められます。

このため、福祉や教育などの多様な分野と連携し、輸送資源の運用方法の効率化を図りながら、公共交通サービス水準・持続可能性の向上を図ります。

基本施策(3) 交通事業者の経営を支える

人口減少の本格化やライフスタイルの変化などにより、交通事業者の経営環境は厳しい状況が続いています。公共交通を持続的に展開していくには、サービスの担い手である事業者の力が不可欠であることから、交通事業者による経営の安定に向けた取組を、国や県と連携して継続的に支援していきます。

基本方針② まちづくりや観光と共創する公共交通

基本施策(4) 駅周辺のまちづくりと中心市街地の活性化を促進する

人口減少・高齢化が進む中、まちの活力を維持するためには、公共交通と連携してコンパクトなまちづくりを進めることが重要です。あいの風とやま鉄道黒部駅のバリアフリー化を含めた西側出口等の利便性向上施設の整備推進をはじめ、まちの中心となる駅施設の整備や駅周辺の整備事業を推進するとともに、中心市街地において電動小型カートなどの地域住民の生活に密着したきめ細かな移動手段を確保することにより、新たな移動需要を創出し、誰もが出かけやすい、出かけて楽しいまちづくりを推進します。



図 ちょいのり黒部の整備

基本施策(5) 観光とともににぎわいをつくる

本市は、黒部峡谷、宇奈月温泉、富山湾など豊かな大自然の魅力があり、国内外を問わず多くの観光客が訪れる観光地を有しています。また、新川地域の玄関口として北陸新幹線「黒部宇奈月温泉駅」が位置しています。国内各地からの観光客のニーズを的確にとらえながら、地域の観光事業者と連携し、観光地を結ぶアクセス交通や観光地内のきめ細かな交通網を整備することで、観光まちづくりと一体となってにぎわいを創出します。

基本方針③ みんなで支え合う公共交通

基本施策(6) 公共交通を積極的に利用する

人口減少やコロナ禍の影響により、公共交通の経営は厳しさを増しており、多様な主体との協働により、公共交通を担う重要性が高まっています。市民の一人ひとりが公共交通を我がこととして捉え、積極的な利用や共創による取組を進めます。



図 保育園児による体験乗車会の様子



図 他分野を含めた「共創」のイメージ（出典：国土交通省資料）

基本施策(7) 支え手・担い手の参加を促す

公共交通サービスを継続的に維持していくには、交通事業者や黒部市のみならず多様な主体の協働により公共交通事業の運営に関わることが重要となります。このため、市民が公共交通を利用するだけでなく、公共交通を中心とした、まちづくりの支え手・担い手として主体的に参画を促すための取組や、事業者と地域住民の連携で生活の移動を支え合う新しい移動手段の検討を進めます。

基本方針④ みんなにやさしい公共交通

基本施策(8) 分かりやすく運行情報を伝える

鉄道、バスをはじめ様々な運行路線、運行形態があり、それらの運行情報、乗継ぎ情報等を分かりやすく利用することが必要です。気軽なお出かけの足として安心・快適な利用ができるよう、公共交通に関する必要な情報を適切な場所・媒体で提供していきます。

基本施策(9) 施設や車両を改善する

バリアフリーや環境負荷の低減等の視点から、交通施設・待合環境・歩行環境、公共交通イメージのさらなる向上を目指し、鉄道駅施設の修繕やバス停上屋の増設等の取組を進めていきます。



図 黒部市公共交通マップ



図 バス停上屋やベンチ等の整備（電鉄黒部駅）

7. 計画達成状況の評価と計画の推進体制

黒部市地域公共交通計画の実施に当たっては、計画に基づく事業の実施状況、目標指標の達成状況を定期的に確認・評価・検証を行い、改善や見直しを図るPDCAサイクルに基づき進捗管理を行います。

本計画の基本理念である「出かけてたのしいまちを育み 地域が一体となってまもり育てる未来へつながる公共交通」を目指すに当たっては、「黒部市」「交通事業者」「市民」などの関係者がそれぞれの役割を担い、協働・共創により取り組むことが不可欠です。連携・協働を推進するため、黒部市公共交通戦略推進協議会を活用していきます。



図 関係者の連携・協働のイメージ

<黒部市の役割>

地域の当事者として、暮らしの足を確保し、出かけやすい、出かけて楽しいまちづくりの推進に向けて必要な投資を行います。

<市民の役割>

市民一人ひとりが公共交通を我がこととして捉え、公共交通を中心としたまちづくりに主体的に参画し、積極的な利用や共創による取組を進めます。

<交通事業者の役割>

地域の移動を支える役割のもと、安全の確保や利用者の利便性向上に向けて取り組みます。